

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年10月
岡谷市教育委員会

「全国・学力学習状況調査」は、文部科学省が今後の教育施策や教育活動の改善に役立てるために、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に毎年実施する調査です。（本年度は4月18日実施）

1 調査の目的（文部科学省による調査）

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等（調査問題では①と②を一体的に問うこととする）

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

3 分析結果（岡谷市学力向上推進委員会による分析の概要）

【教科に関する調査】

- 小学校では、国語・算数ともに平均正答率は県・全国を上回っています。
- 中学校では、国語・数学ともに平均正答率は県・全国を上回っています。
- 小学校、中学校ともに正答数のばらつきが小さく、下位層が少ない傾向にあります。

【質問紙調査】

- 小学校、中学校ともに、基本的な生活習慣（朝食、就寝・起床時刻等）についての質問項目で肯定的回答が多く、生活習慣が安定していることがうかがえます。
- 小学校、中学校ともに、「友達関係に満足している」「先生はあなたのよいところを認めてくれる」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」という回答が多く、児童生徒が周囲の人々と良好な関係を築く中で、日々の生活に安心感や満足感を抱いていることがうかがえます。このことが「自分にはよいところがある」「人が困っている時は、進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけない」という回答の多さにもつながり、児童生徒に自分も相手も大切にする心が醸成されつつあるものと考えられます。
- 国語、算数・数学、理科などの各教科について勉強は「好き」「大切だ」と回答した児童生徒が多く、前向きに学習に取り組んでいる様子がうかがえます。
- 小学校、中学校ともに、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考えて工夫することができていた」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた」と回答した児童生徒が多く、各学校において主体的・対話的な学びが行われていることがうかがえます。また、使用状況についての質問から、授業でのICT機器の活用が進んできていることが分かります。

4 分析結果をふまえた今後の取組

- 岡谷スタンダードカリキュラムの実践による探究的な学習や協働的な学びを推進し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を一層進めるとともに、個別最適な学びを充実させ、個々のつまずきや興味関心、適した学び方等に応じた、個に寄り添い一人一人を伸ばす学びを推進してまいります。
- 各教科において9年間の学びのつながりを意識し、児童生徒の力が螺旋的に高まるように、小中が連携した指導を進めてまいります（「小中学びの連携」の充実）。
- 各学校においてどのような取組が成果につながったのかを分析し、今後のさらなる授業改善につなげてまいります。各学校の取組については、学力向上推進委員会で扱い、岡谷市全体で共有していきます。

令和6年度 全国学力・学習状況調査からみえる

おかやの子のすがた

岡谷市教育委員会



「友達関係に満足している」「先生は自分のよさを認めてくれる」と友達や先生との関係のよさを感じている 【小・中】

「自分にはよいところがある」「人が困っているときは助ける」「いじめはいけない」と自分も相手も大切にすることが育ってきている 【特に小】

朝食、起床・睡眠時刻等の基本的な生活習慣が身についている 【小・中】

岡谷の子のよいところ

児童・生徒質問紙で肯定的な答えが多かった設問から

国語、算数・数学、理科の学習を「好き」「大切」と感じ、意欲的に学習に取り組んでいる 【小・中】

「生活の中で幸せな気持ちになることがある」と日々の生活に安心感や満足感を抱いている 【小・中】

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と主体的に学ぶことができている 【小・中】

「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりできている」と対話的に学ぶことができている 【小・中】

教科に関する調査の結果

- 小学校では、国語・算数ともに平均正答率は県・全国を上回りました
- 中学校では、国語・数学ともに平均正答率は県・全国を上回りました
- 昨年度と比較して、小学校、中学校ともに正答数の多い児童生徒が増えました



中学校では、「授業で学んできたことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」と考える生徒がやや少ない

岡谷の子の課題

児童・生徒質問紙で否定的な答えが多かった設問から

小学校で英語の勉強を「好き」「大切」と考える児童がやや少ない

授業以外の場面でスマートフォンやコンピューターなどのICT機器を勉強に活用している児童生徒が少ない

今後の取り組み

- 各学校において岡谷スタンダードカリキュラムの実践を進め、地域課題の解決に向け大人や友達と共に力を合わせて進める学びを通して、自己肯定感やこれからの社会を生き抜く上で必要となる資質・能力を育んでまいります。また、実生活とのつながりを意識した授業実践を進め、学習内容の実感を伴った理解や実生活と関連させて活用できるような知識・技能の習得を図ってまいります。
- 日々の授業では引き続き、友との対話や学びの振り返りを大切にした授業改善を進めるとともに、ICT機器の有効活用も図りながら、個々のつまずきや興味関心、適した学び方等に応じた、個に寄り添い一人一人を伸ばす学びを推進してまいります。
- 各教科において9年間の学びのつながりを意識し、児童生徒の資質・能力が螺旋的に高まるように、小中が連携した指導を進めていきます。

★各ご家庭においても、お子さんの学習の様子を見守りいただき、声がけ、ご支援をお願いします。

⇒ 裏面『伸びる おかやの子』へ

伸びる おかやの子

～ こんな問題につまづいていませんか ～

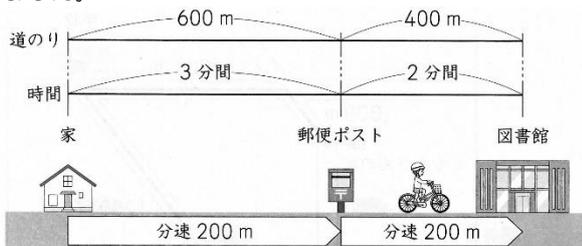


算数・数学の問題を一問ずつ紹介しますので、お子さんと問題に挑戦するなどして、家庭での学び方について話題にしてみてください。(正答率は全国の公立学校の数値です。)

小学校 算数

4 (4)《正答率》54.1% (全国)
《小学校5年生で学習します》

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。答えを書きましょう。

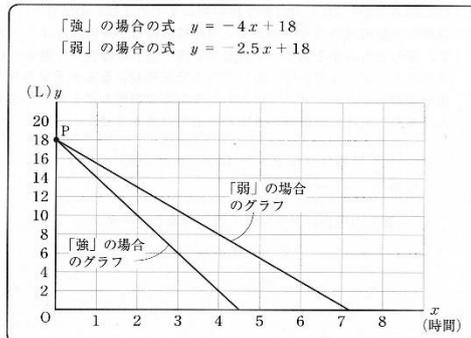
《正答》分速 200m

岡谷市では、22.2%の児童が「分速 400m」と解答していました。家からポストまで、ポストから家までの2区間の速さを距離と同じように捉えて合算してしまったものと思われます。問題には、2区間の速さが同じであることが示されており、「同じ速さで家から図書館まで行く」ことを自分自身の経験と重ねて考えれば、計算なしで「分速 200m」と答えられる問題です。「速さ」などの意味を日常の具体的な場面に対応させて考えていくことは、実感を伴った理解につながります。

中学校 数学

8 (2)《正答率》17.1% (全国)
《中学校2年生で学習します》

ストーブの使用時間と灯油の残量



(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまで「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。
ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と 「弱」場合の式 $y = -2.5x + 18$
イ 「強」の場合のグラフと 「弱」の場合のグラフ

《正答例》

ア 2つの式のyに0を代入し、xの値の差を求める
イ グラフのy座標が0となる2点の距離を読み取る
岡谷市だけでなく全国でも最も正答率が低かった問題です。岡谷市では、小学生も含めて、基礎計算などは正確にできるものの、計算の仕方や問題解決の方法を数学的に説明することには課題がみられます。「どのようにして求めたのか」を言葉や数、式、図、表、グラフなど、数学的な表現を使って説明する問題にも積極的に取り組んでいきましょう。

学力向上のポイント ーさらに力を伸ばすためにー

① 上の例も参考にしながら、自分で計画し、取り組む家庭学習に挑戦しよう

□授業で学習した内容の理解が確かなものになるよう、授業内容と結びつけた家庭学習(予習・復習)や、疑問や課題を解決したり、自分の興味関心をさらに伸ばしたりする自主学習に取り組みましょう。

② 様々なジャンルの本や新聞などを读もう

□問題文を正しく読み取る力を高めるためにも、読書の時間を計画的にとることに加え、推薦本の紹介やブックトーク、読み聞かせなどを通じて、様々なジャンルの読み物や新しい言葉に触れることにより、語彙力や表現力を磨いていきましょう。

③ お子さんの個性やがんばりを認める声がけをお願いします

□日頃からお子さんの「得意なこと」、「がんばっているところ」などを見つけて、認める声がけをしてあげてください。温かな言葉のシャワーが自己肯定感や自己有用感を育てます。それがお子さんの学習意欲の向上につながり、学力を高めるための近道になります。